

みさとならではの価値の循環をみんなで考えました！

11月30日(土) 14:00～16:30

会場 西郷ニューホープセンター (NHC)

プログラム

- はじめに
- これまでの振り返り
- 総合戦略の5つの方向性の発表
 - ー 休憩 ー
- ワーク1「方向性について意見交換」
- ワーク2「みさとならではの価値の循環を考えよう！」
- 全体共有



はじめに

美郷町政策推進室の菊池さんから、ヒアリングやワークショップなど、戦略策定に町民の意見をしっかりと取り入れていく取り組みの流れを説明しました。



これまでの振り返り

「総合計画策定プロジェクト わくわく WORK」は、美郷町に住み続けたい、魅力的なまちづくりを進めていくための総合戦略を、住民、地域団体、事業者など、一緒に美郷町のこれからを話し合い、策定を進めていく取り組みです。まず、美郷町でさまざまな活動をしている33名の方にヒアリング調査を行い、美郷町の魅力や課題、これからの美郷町についてお話を伺いました。整理したヒアリング調査結果を第1回ワークショップで集まった皆さんにお伝えし、それらを踏まえ、美郷町がどんなまちだったらかわくわくするか意見交換し、総合戦略の5つの方向性を導き出しました。第2回ワークショップは、南郷地区、北郷地区、西郷地区をめぐり、約150名に参加いただき、これまでの検討内容を紹介するとともに、たくさんの意見を集めました。その間、職員研修やワーキンググループで庁内での検討も進め、戦略のビジョンと5つの方向性をまとめました。

総合戦略の5つの方向性の発表

総合戦略策定ワーキンググループを美郷町役場職員の有志で立ち上げ、ワークショップを企画運営し、集めた意見の整理や分析を進めています。第2回ワークショップのあと、全体職員研修を実施し、ワークショップで出された意見を庁内でどうにかしていくか話し合いました。その結果、総合戦略のビジョンタイトルと5つの方向性としてまとめました。ワーキンググループのメンバーから、内容について発表しました。



みさとわくわくプロジェクト

ーまちで楽しく過ごしたいよねー

ヒアリング調査で、「わくわくできること」「みんなでわくわくしたい」など、「わくわく」という言葉をたくさん伺いました。そして、美郷町では日々の暮らしの中で、家族やご近所、地域の方々や友人たちと笑い合ったり、一緒に楽しむことをとても大切にしています。住み続けたい、魅力的なまちづくりを進めていくために策定する総合戦略のビジョンタイトルには、「まちで楽しく過ごしたい」という、自然な想いを掲げました。

1. 会えるきっかけと場所がある町

旧田代小やNHCの空きスペースを活用し、図書館の多機能化や子育て支援センター、カフェなどを複合的に整備し、子育てしながら働ける場所をつくる。また、自分の好きなことをテーマに部として募集をかけ、集まった人と交流するなど、集まる場所ができれば、新しい活動も生まれ、老若男女、町外の人ともつながれるような、きっかけと場所がある町を目指します。



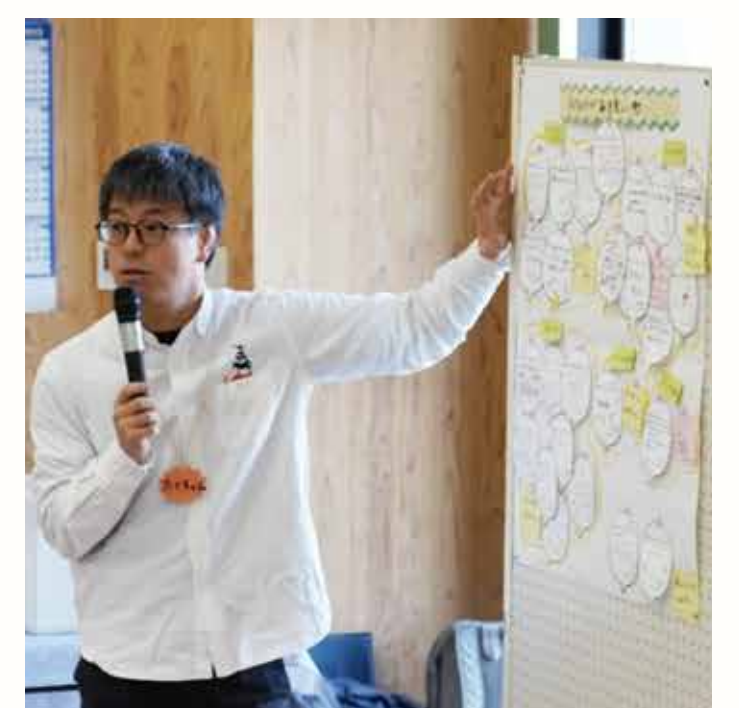
2. 学び合い楽しみを分け合える町

みんなのサマーセミナーは、夏休みに学校を借りて誰でも先生、生徒になって授業をする取り組みで、いろんな人が先生になり活躍できる。好きなものに自信を持つこと、いろんな特技や趣味をもった人を知ること、文化や技術なども伝えることができる。学校や空き施設を活用し、人材育成にも繋がる、美郷ならではの学びや楽しみを広げられる町を目指します。



3. 子供たちが毎日楽しい町

子どもたちが楽しめ、違う学校の子もどうしの交流の場、お金の使い方やルールが学べる場、子どもたちだけでなく、幅広い世代が集まれる場をつくりたい。そのために、公民館などの空きスペースや、場所にこだわらず移動しながらできるしくみ、地域や子育て世代も巻き込んで展開でき、地域の中でお金が循環する取り組みにつなげていける町を目指します。



4. 支え合いが広がる町

人と会えたり、移動しながら話せたり、交流ができる、高齢者の遠足のような取り組みができる。そのためには、運転手やガイドなどの人材が必要であり、住民と行政が協力してできる。そして、高齢者だけでなく、それを支えるみんなが楽しめるような取り組みができ、住み慣れた場所に住み続けられる幸せを感じられることにつなげていける町を目指します。



5. 美郷ならではの味わえる町

生産者の顔、物語を知ることができると、距離が近くなり、購買意欲につながるかもしれない。また、チャレンジキッチンはやる側にとってチャレンジしやすく、利用者側にとっても飽きがなく新鮮で楽しい。空きスペース、空き店舗など可能性がある場所を自分たちでリノベーションし、シェアキッチンをつくり、特産品作りなどにもつながられるような町を目指します。



ワーク1 方向性について意見交換

総合戦略の5つの方向性の発表のあと休憩タイムを設けました。コーヒーや紅茶とお菓子をいただきながら、パネルの内容をじっくり見たり、質問をしたりしながら、さらに深く話し合いたい方向性のテーブルにそれぞれ移動しました。そうして5つのグループに別れ、それぞれ選んだ方向性を実現するために、どんな取り組みがあるのか、また、自分ならどんなことができそうかを付箋に書きしました。一人ずつ発表しながら、意見交換していきました。

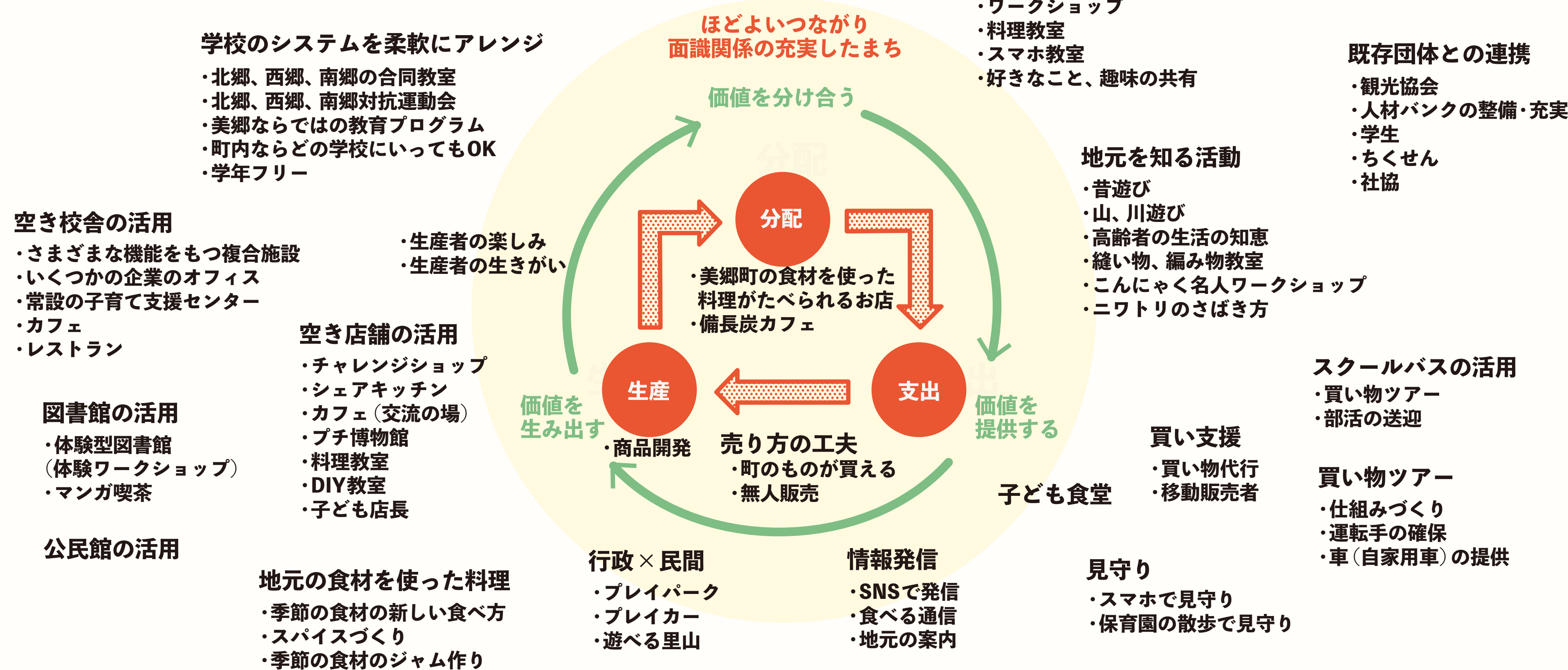


ワーク2 みさとならではの価値の循環を考えよう！

今回の総合戦略の策定を進めていく中で、大切にしている考え方として、「美郷町ならではのほどよいつながりが生み出す貨幣以外のものの循環」があります。ワーク1で意見交換して書き出した、アイデアや取り組みについて、「生産／価値を生み出す」「分配／価値を分け合う」「支出／価値を提供する」という視点で整理し、みさとならではの価値の循環について考えました。



価値の循環シートに書き込まれたアイデアや意見



全体共有

グループ1 会えるきっかけと場所がある町

空き校舎を活用し、コワーキングスペースやオフィス、図書館などいろんな機能を持ち合わせた施設ができるといい。図書館でも書籍だけでなく、クリスマスリースのワークショップなど体験プログラムや漫画コーナー、自分の好きな趣味を共有できる場など、そこに行けばみんながいる。みんなの居場所作りができれば、ボランティア活動や起業などさまざまな活動が生まれ、ぐるっと循環する流れができる。

グループ2 学び合い楽しみを分け合える町

「分配」は、地元を知る活動や子供からお年寄り、高齢者まで、誰でも先生となって、趣味や特技を人と共有する機会や場所をつくるのが大切。「支出」は、大きく2つの価値「場所」と「労働力」の提供があるが、荒れた土地、空き施設、店舗を活用し、みんなでシェアできるような、個人個人で持っている情報を全体で共有、蓄積し、子どもたちが楽しく過ごせる空間、場所作りを「生産」できるといい。

グループ3 子どもたちが毎日楽しい町

北郷、西郷、南郷で合同教室を週に1回やってみるなど、学校のシステムをもう少し柔軟にアレンジできないか。子どもたちのための催しをする際に公民館を簡単に借りられるなど、主体的な活動を応援できる地域になるといい。子ども食堂や遊び場など、民間と行政が一緒にしくみをつくって運営できるといい。また、子どもが楽しく育つための考えや知識を分かち合える親の学校があるといいという意見がでました。

グループ4 支え合いが広がる町

支え合いを広げていくためには買い物ツアーなどの取り組みが必要。町のマイクロバス、スクールバスは朝と夕方しか使わないので、それらを活用した移動支援や買い物支援ができるといい。また、知識や技術、スキルを持つての方の情報を有効に活用したスマホ教室、保育園の散歩の時に高齢者を見守るなどの支え合いの仕組みや、地域で助け合うチームや困り事を解決するようなような組織があるといい。

グループ5 美郷ならではの味わえる町

「生産」は、ふるさと納税の返礼品として活用できる商品開発、また、美郷町の食材を使ったスイーツアワードを開催し、全国から参加を募るなどのアイデアがあげられた。「分配」は、料理教室や観光農園などの展開。「支出」は、情報発信、SNSや「食べる通信」などの活用が大事という意見が出ました。そして、規格外の商品の活用や、町の中で町のものが買えるような、売りの工夫も必要との意見がでました。

町長コメント

ワークショップの様子をみてワクワクする戦略ができると確信しました。そして、ワクワクするだけではなく、アクション、実行することがさらに大事です。いま、就学前の子どもたちが二十歳になった時、美郷を好きでいられる、そのための基礎となる戦略にしましょう。

